

# 關係資料

天草拓心高校 ルーブリック評価一覧

			到達までに相当の努力が必要	到達までに努力が必要	一部到達できている	十分到達できている
ありたい像	領域	小分類	1	2	3	4
A 個別の知識・技能	① 知識	(1) 事実に基づく知識	授業をとおして教科の専門的知識を理解・習得していない。	授業をとおして教科の専門的知識をやや理解・習得している。	授業をとおして教科の専門的知識を理解・習得している。	授業の内容を理解し、教科の専門的知識を更に探究することができる。
		(2) 概念的知識（経験的知識）	事実に基づく知識と経験から得る新たな知識を関連づけて理解することができない。	事実に基づく知識と経験から得る新たな知識を関連づけて理解することができない。	事実に基づく知識と経験から得る新たな知識を関連づけて理解することができない。	事実に基づく知識と経験から得る新たな知識を関連づけて理解することができ、新たな知識を探究することができる。
	② 技能（技術）	(1) 事実に基づく技能（技術）	実験・実習をとおして教科の専門的知識（技術）を理解・習得していない。	実験・実習をとおして教科の専門的知識（技術）をやや理解・習得している。	実験・実習をとおして教科の専門的知識（技術）を理解・習得している。	実験・実習の内容を理解し、教科の専門的知識（技術）を更に探究することができる。
		(2) 経験的知識（技術）	事実に基づく技能と経験から得る新たな技能を関連づけて理解することができない。	事実に基づく技能と経験から得る新たな技能を関連づけて理解することができない。	事実に基づく技能と経験から得る新たな技能を関連づけて理解することができない。	事実に基づく技能と経験から得る新たな技能を関連づけて理解することができ、新たな技能を探究することができる。
B 思考・判断・表現	③ 思考力	(1) 科学的思考	仮説を立てられず検証に至らない。	仮説は立てられたが適切な検証方法を見いだせない。	仮説に見合った方法で検証でき、結果を得ている。	自ら仮説を立て、適切な方法で検証し、得られた結果から考察できる。
		(2) 情報分析能力	新しい知識や情報を取得できない。	新しい知識や情報を取得し、整理することができる。	授業やアンケートなどから複数の情報を得ることができ、それらを用いて考察することができる。	授業や調べ学習で得た知識やアンケート、実験・検証などから得たデータを元に考察や創意工夫ができる。
	④ 判断力	(1) 論理的判断	記述した文章の内容に矛盾や誤りが含まれている。	矛盾や誤りなく文章を記述できている。	記述した内容が正確で、説得力がある。	記述した内容が正確で説得力があり、新たな視点を加えている。
		(2) 計画性	計画を立案できず実行力がない。	計画を立案し、実行できる。	立案した計画が適切かどうかを判断し、実行に移す（検証する）ことができる。	立案した計画をもとに実行（検証）し、状況に応じて改善を行うなど臨機応変に対応できる。
	⑤ 表現力	(1) プレゼンテーション能力	自分の取組をまとめることができない。	自分の取組をまとめることができる。	図やグラフを用いて自分の取組をまとめられる。	取組のまとめに、適切な図やグラフなどによる表現や、独自の創意工夫が見られる。
(2) コミュニケーション能力		自分の取組を説明できない。	自分の取組を発表・説明することができる。	自分の取組を理解し、自分の言葉で発表・説明できる。	自分の取組を十分に理解し、他者に分かりやすく説明することができる。	
C 学びに向かう力・人間性	⑥ 主体性	(1) リーダーシップ	全てを自分の事と捉えることができない。	課題を認識し、動くことができる。	活動を自分の課題と捉え、積極的に考え、動くことができる。	活動を自分の課題と捉え、積極的に考え、動くことができ、成果をだすことができる。
		(2) 目標設定能力	目標が定まらず、何をすればいいかわからない。	目標が見えてきて、どうすればいいか考えている。	目標を設定し、それに向けた行動をしようとしている。	目標設定が明確で、それに向けた具体的な行動がとれる。
		(3) 実行力・持続力	継続的に取り組むことができず結果を出せない。	計画とはずれているが、継続して取り組むことができる。	計画通りに継続して取組を進めることができる。	計画通りに継続して（定期的に）取り組むことができ、工夫・改善をしながら結果を出すことができる。
	⑦ 協働性	(1) 対話的活動能力	自己主張ばかりで他人の意見を聞き入れない。	他人の意見を聞くことができる。	自分の意見と他人の意見の相違点や共通点を見いだすことができる。	相手の意見を尊重し、意見をまとめながら行動できる。
		(2) 課題発見力	課題が何であるかわからない。	課題について自らの意見を述べている。	課題について出された意見を聞いたうえで、自らの考えを発言することができる。	課題が何であるかを、意見を出し合う中で発見し、本質に近づく努力ができる。
		(3) 独創性	従来に沿った目的、方法、手法が計画されている。	独自性のある目的、方法、手法が立てられている。	学習において独自性のある結果、考察が得られている。	学習目的、結果の独自性が社会において認知される。
⑧ 倫理観	(1) 社会性（地域性）	天草の特長や地域について知らない。興味・関心を持っていない。	天草の持つ特徴や地域性を理解している。	天草の持つ問題を認識し、その解決方法を調べ、実践することができる。	天草の持つ問題を認識し、その解決方法を調べ、実践し、改善することができる。	
	(2) 自己肯定感	自らの役割を認識せず、活動に積極性がみられない。	自らの役割を理解し、積極的に活動できる。	自らの役割を理解し、天草をはじめ地域社会でどう活躍できるかを考えられる。	自らの役割を見出し、天草をはじめ地域社会にいかに関与できるかを考えて行動できる。	
	(3) 確かな職業観	将来の職業について、何も決まっていない。	将来の職業について、系統や方向性までは決まっている。	将来の職業について、具体的な目標が決まっている。	将来の職業について、具体的に決まっており、それに向けて動き出している。	

令和3年度（2021年度）文部科学省  
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）」  
第1回コンソーシアム会議（ローカル・サークル）議事録  
熊本県立天草拓心高等学校

- 1 主催 熊本県立天草拓心高等学校コンソーシアム運営事務局
- 2 期日 令和3年（2021年）5月26日（水）
- 3 場所 熊本県立天草拓心高等学校 視聴覚室
- 4 出席者
  - (1) ローカル・サークル委員
    - (株) デンソー天草事業所 所長 益田 智
    - イオン九州株式会社イオン天草店 販促担当 羽衣石 純夫
    - 岡村農園ハンドメイド 代表 井上 政哉
    - (株) 光延農園 代表取締役 光延 啓人
    - 本校就農アドバイザー・倉田農園ニライカナイ 代表 倉田 政幸
    - 本渡五和農業協同組合営農経済部営農課 課長 吉本 和喜
    - 地元畜産農家 代表 井上 美智信
    - 天草広域本部天草地域振興局農業普及・振興課 課長 木庭 正光
    - 天草市役所経済部産業政策課 課長 田川 誠也
    - 天草市起業創業・中小企業支援センター「Ama-biz」所長 小田 勝久
    - 天草ケーブルネットワーク株式会社メディア事業部 担当 吉村 彩花
  - (2) 熊本県教育庁県立学校教育局関係職員
    - 高校教育課 課長 重岡 忠希
    - 高校教育課 指導主事 小田原 健
  - (3) 熊本県立天草拓心高等学校関係者
    - 校長 中村 洋介
    - 教頭 泉 伸仁
    - 教諭（農場長） 平木 慎二
    - 教諭（研究主査） 藤井 隼人
    - 他関係職員

5 議事等

(1) 議案

議案第1号「天草の課題及び魅力から学ぶ資料集の作成について」

6 会議の概要

(1) 開会

泉教頭が開会を宣言した。

中村校長の挨拶

重岡課長の挨拶

(2) 議事

○議案第1号「天草の課題及び魅力から学ぶ資料集の作成について」

質疑応答

**藤井研究主査**

12月22日に研究成果発表会を予定しているが、近日になり日程が決まった際に連絡を行う予定である。研究成果発表は天草市民センターで行なう予定であ

る。今年は2つの目標を掲げている。1つ目は、進路指導である。自分の進路を見据えた行動をとれる生徒の育成を目指している。2つ目は、農業従事者の育成である。卒業後に天草外で研修をし、将来は天草に戻り地元農業を盛り上げる若者の育成に力を入れていく予定である。そして、地域課題解決のために、各種競技大会やコンテストに挑戦し、メディア等にも参加しながら取組んでいきたい。

#### **藤井研究主査**

この2年間、生徒たちは課題や魅力に触れてきたが、インターネット等で調べてもわからないことも多くあった。しかし、地域の人と協力し課題解決に取り組んできた。今後も資源発見、魅力発見、課題発見ができるような資料を、3年間の成果として資料集を作成していきたい。カテゴリー分け、専門分野ごとに作成し、次世代に引き継いでいける物にしたい。専門分野に特化しすぎることなく、分かりやすい物であることに重点をおき、人権にも配慮して、最新で多くの人への需要がある資料集作りに取り組んでいきたい。

#### **藤井研究主査**

作ろうと思った経緯は、現3年生が1年生の時に非常に苦労した事があった。そのため、1年生が新たな取組を始める際に、スムーズに始めやすいための資料が必要である。そのため、作成するに至った。

#### **光延委員**

プロジェクト計画と、資料集作りは別物なのか。

#### **藤井研究主査**

別物ではなく、それらも含めた資料集作りである。

#### **光延委員**

グローバル課題（SDGs）の取組については、どうなるのか。

#### **藤井研究主査**

自分たちのプロジェクトが、世界に繋がっていることを自覚させたい。

#### **倉田委員**

熊本県内の農業収支においては平均的なデータはあるが、天草管内に限ったデータはない。そのため、卒業後の生徒たちがスムーズに天草での就農ができるよう、天草の農業に限った基本的なデータを資料集に取り入れて欲しい。自分たちが高校生の頃は、全国や熊本県ベースのデータはあったが、天草に限ったデータはなかったので、ほとんど参考にならなかった。

#### **藤井研究主査**

天草の農業に関して、数値化したものを資料集に載せることができれば、生徒たちにも興味を持ちやすい。

#### **羽衣石委員**

この資料集ができあがれば、高校生にとっても宝になるし、天草にとっても今後の方針に繋がっていく。早めに手順を出してもらえれば、委員もすぐに入っていける。この資料に書かれている農業資源、加工品、福祉、ビジネス環境以外のことも出せるのではないか。早めに役割分担を決めて、取組んでもらいたい。

#### **小田委員**

作成予定の資料集は、事例集として考えていいのか。個人的な名前は公開する方向でいいのか。紙ベースでいいのか、その後、Web化する方向性はあるのか。

#### **藤井研究主査**

まずは、学校内で生徒たちが使えることができる事。いずれは、外部に流していければと考えている。

#### **井上マ委員**

仕事の関係からいけば、食品加工の分野でしか意見が出せない。それぞれの専門分野から意見を出し合い、その後資料を持ち寄るやり方がスムーズに行くのではないか。他の分野には知識がないため、食品添加物など食品加工に関する課題をもらえれば、私としては対応できる。

#### **藤井研究主査**

深い内容までやっていく時には、各担当教諭や専門の委員さんをお願いできればと考えている。まずは大枠を決めてから、委員さん方に揉んで頂きたい。当初は生徒達に集めさせたいと思っていたが、コロナ禍のためにうまく動けない。井上さんがお店を始められた時には、どのような流れで始められたのか、そのような事や各委員さんの経験などもお願いしたい。

#### **藤井研究主査**

先端技術（スマート農業）に関しての、意見を出して頂きたい。

#### **倉田委員**

天草の農業において、スマート農業の活用はどこまでできるのか。天草でも畜産や水田での利用は可能である。天草の農業に対して、ある程度の利用可能な範囲を生徒たちに考えさせ、資料集に載せてはどうか。

#### **井上ミ委員**

天草でも畜産関係では利用されている。カメラやスマホと関連させて普及が進んでいる。しかし、野菜関係になると、天草の農業に導入は難しい可能性がある。将来は、畜産も野菜も、天草での地産地消が出来ないだろうか。資料を製作する場合、どこからどこまで載せるのか。昔の歴史から載せるのか。学校内に農家の生徒達が少ない現在、どこまで興味をもって取組ませるのか。

#### **泉教頭**

本校の生徒の農家率は、どのような状況になっているか。

#### **平木研究主任**

本校の生徒の家庭での農家率は4%である。また、非農家の生徒でも、卒業後に畜産農家を希望している生徒が年々増えている。本校としては、非農家の生徒には熊本県立農業大学校に進学し、卒業後に天草または県内の畜産農家での雇的就農を経験し、いずれは天草で畜産業が営めるような進路指導を行っている。

#### **吉村委員**

専門家に聞くとこで、深みのある資料になる。生徒達は、どんな情報が欲しいのか、どこで苦労したのか等分かれば資料が作りやすい。

#### **木庭委員**

これまでの新規就農者の情報は、将来の就農予定の生徒達の参考になる。

#### **藤井研究主査**

今回聞かせて頂いた意見を踏まえ、今後は緊密に計画を進めていきたい。委員さん方の専門的な意見を職員の方で対応し情報を吸い上げていきたい。生徒からのニーズ、地域からのニーズに対応した資料集にしたい。

#### **(3) 閉会**

泉教頭が閉会を宣言した。

令和3年度（2021年度）文部科学省  
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）」  
第2回コンソーシアム会議「マザー・サークル」議事録

熊本県立天草拓心高等学校

- 1 主催 熊本県立天草拓心高等学校コンソーシアム運営事務局
- 2 日時 令和3年（2021年）6月9日（水） 13:30～15:00
- 3 場所 熊本県立天草拓心高等学校 校長室
- 4 実施方法 ZOOMによるWEB会議（オンライン）
- 5 出席者

（1）マザー・サークル委員

（株）デンソー社会ソリューション事業推進部	部長	渥美 欣也
尚綱大学生生活科学部栄養科学科	准教授	川上 育代
熊本県商工労働部産業支援課	主幹	林田 安生
熊本県立農業大学校	校長	中村 秀朗
熊本県天草広域本部	本部長	松岡 正之

（2）熊本県教育庁県立学校教育局関係職員

高校教育課	課長	重岡 忠希
高校教育課	指導主事	小田原 健

（3）熊本県立天草拓心高等学校関係者

校長	中村 洋介
教頭	泉 伸仁
農場長	平木 慎二
研究主査	藤井 隼人

6 議事等

（1）議案

議案第1号「天草の課題及び魅力から学ぶ資料集の作成について」

7 会議の概要

（1）開会

泉教頭が開会を宣言  
中村校長の挨拶  
重岡課長の挨拶

（2）議事

○議事第1号「天草の課題及び魅力から学ぶ資料集の作成について」

**藤井研究主査**

今年度の本校の研究開発の取組について説明を行う。今年度の重点目標に関して5つを掲げた。①天草を変革するための具体的方策を地域とともに形にす

る②起業及び就農のための学習を強化③グローバル課題（SDGs）と関連付けた地域課題の学習④これまでの学習の成果を形にする⑤AOLAの（本校独自の学習評価法）完成

天草を変革するための具体的方策を地域とともに形にするとは、一言で言えば進路指導と考えている。これまでのプロジェクト学習では、様々な地域の方々と対話的な学習を進めて来たが、その中で「自分には何ができるのか、将来的に自分は何をすべきなのか」、そういうことを自己認識に繋げていきたい。進路実現に向け、今後のプロジェクト学習や様々な学習を得て進路選択のミスマッチをなくし、将来的な離職率の低下、あるいはやりがいのある職業に就くような取組ができればと考えている。それに際して、令和元年度から進めてきた学習の記録等を用いて自己認識につなげ、そして、キャリアアップの基礎としていく予定である。起業及び就農のための学習を強化するため、プロジェクト学習を中心とした起業及び就農に向けた取組として、経営シミュレーション体験をさせたい。現在生徒たちが取組んでいるプロジェクト学習のテーマに沿って、「それぞれの取組が地域のためにどのような効果を出すのか」、また、「社会にどのような影響を与えるのか」、「自分が起業をした場合や就農した場合にどのような経営をやって行くのか」、そのような事を具体的にシミュレーションできればと考えている。今後は、このような取組を、ビジネスコンテストやビジネスプランの作成等に繋げていきたいと考えている。グローバル課題である「SDGs」と関連付けた学習に関しても、プロジェクト学習を中心とした地域課題や社会問題を繋ぎ止め、それらをグローバル課題にどのように繋げていくかという事を、生徒たちの学習の流れにもっていききたい。プロジェクト学習のテーマの中では、具体的なゴールを目指すという指針を示しているテーマもある。プロジェクト学習の年間計画をもとに、生徒に様々な全国の高校生対象のコンテストに挑戦をさせたい。AOLA（本校独自の学習評価法）とは、天草拓心版オーダーメイド学習評価法の略称である。昨年度までは、「ルーブリック評価」「アンケート評価」「ポートフォリオ評価」により生徒の変容を取られてきた。今年度はそれらの評価をさらに充実したものにすするため、各教科へ「ルーブリック評価」を落とし込み、生徒の目標設定を明確にした上で、授業の中で生徒の変容を捕らえていく取組を考えている。

質疑応答

**渥美委員**

それぞれの項目がなぜこのようになったのか、もう少し詳しく教えていただきたい。

**藤井研究主査**

「将来的に就農をしたい」、「地元に残って就職をしたい」、「さらには将来的には地元に戻ってきたい」等、様々な方向性に分かれると考えられる。生徒たちの進路希望等も踏まえても、やはり1回は外に出て将来は天草に戻りたいとの

回答が非常に多かった。生徒たちの希望を踏まえ、将来的には天草にどのように貢献したいのか、外でどんな力を身につけたいのか、将来的に就農・起業をしたい生徒達がどのような進路は歩むべきなのか、そのような理由で進路指導を強化していきたい。

#### **渥美委員**

いろいろなものを学んで戻ってきた人達が、天草を変革していくような人材になるような指導をしていきたいということか。

#### **藤井研究主査**

そのようになる。

#### **渥美委員**

グローバル課題である「SDGs」については、どうなのか。

#### **藤井研究主査**

ローカル・サークルの委員の方からも、学校で「SDGs」との関連付けた学習の評価をして欲しいとの意見が出た。プロジェクト学習の内容に、グローバル課題と繋がる取組が非常に多い。「SDGs」の中身を理解してプロジェクト学習と繋ぎ合わせて、生徒たちの意識の醸成を図っていきたい。実践例を挙げると、現在、藻を使って豚の研究をやっている内容は、住みやすい街づくりを目指した項目に繋がっている。様々な課題に対してどのように繋がっていくのか、生徒たちがやっていることが世界にどう繋がっているのか、具体的にイメージさせるとより探究的な学習に繋がっていくと考えられる。

#### **藤井研究主査**

資料集作成の目的として5つに絞った。①生徒の学習の補助教材として使用②1年次に地域理解及び地域課題の発見③教科書やインターネットでは得られない情報④資料を用いて興味関心を得たことの課題研究型学習。⑤コンソーシアム全体でこれを共有し人材育成のための作成。資料集作成のポイントとして、生徒が授業の中で使用する資料集、ローカル・サークル委員の方々には地域内部の情報提供、マザー・サークル委員の方々には地域外の社会情勢やグローバルな情報、そして、地域外から見た天草の魅力と課題。このために、資料及び助言等を提供して頂きたい。資料の使い方として、1年時に興味関心を持たせる資料として使用したい。ローカル・サークル委員からは、「プロジェクト学習の内容を盛り込んだ方がよい」「天草で就農する生徒のために、天草管内の農業収支等を入れるとよい」「専門分野ごとに担当者と連携して資料作りを進めればよい」「この資料集は高校生と地域の宝となるため、早めには役割分担をして欲しい」「どこまで載せるかを明確にして、農家の生徒がいない現状で興味関心を持たせるのはすごく大切である」というような意見があった。校内の対応としては、「生徒たちに何を学んで欲しいか」、「生徒たちが何を学びたいか」を整理し、委員との情報交換を行っていくべきであると考えている。

本日委員の皆様には、「資料集の中身をどのような中身にしたいのか」、「こ



のような項目をぜひ入れて欲しい」、「社会ではこのような情報が最新である」等のご意見をいただきたい。

#### **泉教頭**

次年度からは国の支援がなくなるため、今後も地域と関わりながら生徒の育成を目指していくための資料をどのような形で今後も残していくか、この点にポイントにおいてご意見を頂きたい。

#### **川上委員**

資料集のアイデアを出していくということでもいいのか。分担しながら、資料集の作成をやっていくのか。

#### **藤井研究主査**

事業を行っていく上で、生徒にどうしたら興味関心を持たせられるか困っていた中で、コンソーシアムの委員の方々と一緒に何か資料ができないかと考えた。各専門分野に関して、ローカル員の方々からは天草地方の情報、マザー委員の方々からは天草管外からの情報をお願いしたい。

#### **松岡委員**

私も資料集のイメージがなかなか分かりづらい。キャリアデザインに向けたファーストステップとしての学習教材のようなイメージでよろしいか。資料集の名称より、キャリアデザインに向けた学習教材の名称のように、ストレートな言い方の方がよくないか。

#### **藤井研究主査**

キャリアデザインのためのシードブックなど、〇〇ブックなどのような名称でまとめていければと考案中

#### **林田委員**

来年の1年生の学生に、より興味を持ってもらうことが本質であれば、それに向けてどのような内容にすればいいのか、どのような項目にしたいのか。

#### **中村委員**

この資料集作成は、非常に良い考えだと思う。一年生が利用するとなると、基本的な情報をしっかり整理したハンドブックみたいなもの、いつでも授業の時間に活用できるものを作ってもらいたい。

#### **林田委員**

HACCPに関しては、昔はもっと難しかったが、最近は噛み砕かれて実践が伴っていて、中小の小さい事業所でも実際に出来るようになってきているので、それを分かりやすく説明するというのは1年生、2年生で役に立つ。

#### **渥美委員**

HACCPはグローバルスタンダードの一つになっており、日本でオリンピックもあるので1つのテーマとしては良いと思う。

#### **川上委員**

テーマとして、郷土料理というものは大事である。天草地域の人なら、地域の

郷土料理はぜひ知っていて欲しい。郷土料理の歴史なども取り入れて、テーマを深めて欲しい。

#### **藤井研究主査**

担当職員と委員の方々がそれぞれ連携をして、この資料集作りを進めていく。この夏が非常に動きやすいと思っている。コンソーシアムとして生徒を育成するひとつの成果として、みんなで作り上げたい。資料作りで、生徒の生産物を作る達成感や距離が縮まると思う。

#### **渥美委員**

資料作りの意義を、もう少し詳しく教えてほしい。

#### **藤井研究主査**

地域のことを知ろうと、開始年度始まった。プロジェクト学習を始めるきっかけや興味作りを目的に、作成に取り組んでいきたい。各学科との連携から始まり、ゆくゆくは他校との連携にもつながるようになっていくと期待できる。

#### **松岡委員**

資料集作りにイメージしづらい部分もある。将来を見据えたキャリア学習向けの教材として、資料集との名前を変えたらどうか。

#### **藤井研究主査**

キャリアデザインのための教材としていく予定である。

#### **林田委員**

地域と課題の魅力に違和感がある。テーマが大きすぎるので、1年生に興味を持ってもらうなど、簡単な事例と自らできること等にすると興味を持ってもらえると思う。

#### **中村委員**

農大では「さなぶり」について知らない生徒が多かった。農業経験者の数が、農大では減っている。未経験者が基礎・基本的な事柄を理解できるようなものにしていくと、資料として良い。農大にも資料があるから、参考にすると良い。

#### **林田委員**

H A C C Pは取り入れた方が良い。昔に比べわかりやすいものになっている。

#### **渥美委員**

2017年に天草にきてインターンシップを行なった。高校生が小学生にわかりやすく教えていた。そういう場面が成長につながり、良いと思う。オリンピックも始まり、グローバル化で様々な文化が混じっている。これに合わせたものを進めていく必要もあるので、H A C C Pを取り入れるのは良いと思う。

#### **川上委員**

郷土料理について、大学でも食育の機会を設けている。天草出身でも「がねあげ」を知らない学生が多く、歴史や郷土について伝えられる資料にしてほしい。

#### **藤井研究主査**

興味・関心を持たせる資料作りとして、先生方にも資料を提供し作って行く。

まずは、各担当が作り取りまとめ協力体制の基資料作りを行ない、11月10日のサークルでは、ある程度形となって見せることができると思う。生徒が興味を持てるような資料作りをしていきたいので、委員の方々からも情報をいただきたい。それらの情報を載せ、厳選し、著作権や肖像権、人権に関して配慮して、誰でもオープンに見られる資料集を作りたいと考えている。どんな物ができるかは、まだわからないことも多い。だからこそ連携し資料を作っていく必要がある。地域と連携し、ともに作り上げたといえるものにし、将来の生徒にとっても参考になるようなものにしていきたい。今後とも連絡・連携をとりながら進めていければと思う。

#### **重岡課長**

他学科との関わりや連携については、どのように考えているのか。

#### **藤井研究主査**

他学科も学科の特性にあった学習をすすめ、連携につながる取組にしていこうと計画している。

#### **松岡委員**

地元のうまくいっている農家さんを知ることは重要である。それらも取り入れ、生徒のみならず保護者や教師も参考になるようなものにしてもらいたい。先輩の情報も含め具体例など入れると良い。

#### **藤井研究主査**

農業をやりたいと思う生徒もいる。それらの生徒に農業の実際を見せられればと思う。

#### **松岡委員**

見せることや示すことは大切で、今の農業者にとっての責務であると思う。天草以外の情報を生徒たちは非常に知りたがっている。これらも、取り入れていったほうが良い。

#### **藤井研究主査**

スマート農業について、中身に触れる機会が少ないと考えている。

#### **中村委員**

ドローン操作はやっている。農大でもドローンやロボット研修、交流会をやっている。農水ホームページを活用すると良い。

#### **渥美委員**

デンソーでも開発をしている。触れる機会がある。SNSで発信もしている。様々なところで収集していくと見つかる。

#### **藤井研究主査**

生徒が地元に残り、リーダーとして引っ張り、盛り上げていくようにしていきたい。また、卒業後先輩となり、今後どうなっていくかというのわかるように引き継がれていくような物にしていきたい。興味関心を持たせる資料作りとして、先生方にも資料の提供をお願いしたい。まずは各担当者が作り、取りまとめ

協力体制の基礎的な資料作りを行なう。11月10日のサークル会議では、ある程度形となって見せることができると思う。生徒が興味を持てるような資料作りをしていきたいので、委員の方々からも情報をいただきたい。それらの情報を載せ厳選し、著作権や肖像権、人権に関して配慮して、誰でもオープンに見られる資料集を作っていきたい。また、How to本にもしていきたい。

(3) 閉会

泉教頭が閉会を宣言した

令和3年度（2021年度）文部科学省  
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）」  
第3回コンソーシアム会議「ローカル・サークル」議事録

熊本県立天草拓心高等学

校

- 1 主 催 熊本県立天草拓心高等学校コンソーシアム運営事務局  
2 期 日 令和3年（2021年）9月30日（木）  
3 開催方法 WEBによるオンライン会議（オンライン用アプリZOOM）  
※<sup>1</sup>オンラインでの会議が困難な場合は来校しての参加  
※<sup>2</sup>全体会実施後に分科会を実施するため、会場ごとに接続する。

4 出席者

(1) ローカル・サークル委員

(株)デンソー天草事業所 所長	益田 智
イオン九州株式会社イオン天草店 販促担当	羽衣石 純夫
岡村農園ハンドメイド 代表	井上 政哉
(株)光延農園 代表取締役	光延 啓人
本校就農アドバイザー・倉田農園ニライカナイ 代表	倉田 政幸
本渡五和農業協同組合営農経済部営農課 課長	吉本 和喜
地元畜産農家 代表	井上 美智信
熊本農業研究センター天草農業研究所 所長	山部 秀敏
天草広域本部天草地域振興局農業普及・振興課 課長	木庭 正光
天草市役所経済部産業政策課 課長	田川 誠也
天草市起業創業・中小企業支援センター「Ama-biz」所長	小田 勝久
天草ケーブルネットワーク株式会社メディア事業部 担当	吉村 彩花
熊本県立農業大学校 農学部長	緒方 宏樹
熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課 指導主事	小田原 健

(2) 熊本県教育庁県立学校教育局関係職員

高校教育課 指導主事 小田原 健

(3) 熊本県立天草拓心高等学校関係者

校長	中村 洋介
教頭	泉 伸仁
教諭（農場長）	平木 慎二
教諭（研究主査）	藤井 隼人

5 会議の概要

(1) 開会

泉教頭が開会を宣言した  
中村校長の挨拶  
小田原指導主事の挨拶

(2) 教職員との情報交換会

「資料集の作成に関わる情報交換」  
※各グループでの少人数会議を実施

質疑応答

「野菜・地域農業部門」

## 谷口教諭

天草地方の野菜生産の経営形態について、天草で野菜を取り扱ってる農家の軒数とか調べればすぐ分かるが、農家以外の企業で野菜生産に携わっている企業はどれほどあるか。

## 光延委員

土地の取得の問題もあり、株式会社等の異業種からの参入は難しさがある。参入したくても土地がない。そのため、学校の跡地で農業に取り組んでいる会社もある。知り合いの農家から農地を借りて、農業に取り組んでいる会社もある。今後、規制緩和等がない限り、農業への企業等の参入は進んで行かないと考えている。日本においては企業が農地を借りることができないので、採算性を考えた場合、土地を購入してまで農業に取り組もうと考えている企業は少ないと考える。吉本課長が話されたように、最近ではトマトにしろいろいろな野菜が安値で推移しており、投資した分を回収することが極めて難しくなっている。付加価値をつけた栽培、特色のある物を考えていかなければ厳しいと考えている。

## 谷口教諭

非農家の生徒が多く入学してくる昨今、生徒へは農業への理解者になって欲しいとの思いもあり授業にあたっている。最近では、非農家の生徒でも農業に興味・関心があり、卒業後は農業に従事したいと希望する生徒も年々増えてきている。そのため、地元にも農業法人が増えてくれたらと希望している。

## 光延委員

サラリーマンと同じように週休2日制であったり、地方都市の役場並みの給料、普通の企業に就職するような感じで社会保障も含め、充実した中での経営を心がけている。そのためには、卵と鶏ではないが、会社として利益を出して運営していけるように作物を作り、そして出口を確保し、安定的な収益を毎年継続できる事が条件となり、その条件を続けていくことによって、農家でなくても農業をやりたい生徒さん達の受け皿になれるように努力をしている。

## 谷口教諭

本校の場合、ガラス温室等ハード面に関しては40年以上経過している。本来なら、農業高校の施設が地域農業の最先端でなくてはならないと思いつつも、実際には近隣の農家さんや農業法人さんの方が先端の技術を取り入れている。例えば、硬質フィルムの環境制御型の施設等を使用されており、もどかしい気持ちでもある。最近では、スマート農業など先端技術を取り入れていく事はスタンダードになってきている。学校の施設はすぐには変えられないが、なにか部分部分で取り入れられないかと思っている。その点に関して、農大で取り入れられていることを緒方農学部長にお聞きしたい。

## 緒方委員

今年から農大に赴任してきて感じるのが、非農家の学生が増えてきている。今年の1年生の54%は非農家である。しかし、将来的には農業をやりたいと考えている学生が多い。農業に関連した法人や企業、新規就農に取り組みたいという学生がいるので、法人関係の受け口があると、学生たちに夢や希望を持たせて送

り出していけると考えている。今年の2年生に対する就職説明会では、19社の法人が説明会に参加された。非農家の学生が農業法人に就職した時に、どういう技術を持って、どういう知識を持って送り出せるかと考えると、スマート農業と言われるようないろんなものを使いこなせる、そういう技術や研修・資格をできるだけ取らせようと思っている。また、県内の各農業高校とは、シクラメンのクラウド上のデータの共有をさせてもらっている。さらに、その辺りのクラウド上のものがうまく使えるようになること。畜産関係では、牛群管理システムを今年取り入れる予定にしているが、そういうものも各学校から高校からそのどのような扱い方をやっているか、分かるようにしたいと思っている。ロボット・トラクターは、農大にも入った。その他に、菊農・熊農にも入っているが、この辺りもどんどん使えるようになって、ある程度の規模の法人等に就職した時に使いこなせるような技術を身に付けさせたい。それから、ドローンも初級・中級・上級というように現在研修をやっているが、そういうことも含めて農大としては、地方に帰って行った時にしっかり中心となって色んなところで活躍できるような学生を育てたいと思っている。現在1~2年生の学生の中で8人ぐらいが天草方面から来ており、いずれは帰っていくと思うが、自営をするのかどういう形でこれから考えていくのか全員分かってるわけではないが、できるだけ天草の活性化につながるような人材育成に関しては、農大としてもいろんな情報もいただきながら、このような会議にも参加し刺激を頂きながら、こういうことをしていかなければならないという気づきになればと考えている。

#### **谷口教諭**

農大では、ドローンの資格も取れるのか。

#### **緒方委員**

農業用ドローンも完全な資格というか、扱える（初級、中級、上級）講習会のようなもの。扱うドローンによっても資格が違う。

#### **谷口教諭**

以前までは、ラジコンヘリの資格取得が農大ではできていたと思うが、現在ではドローンに置き換わった状態なのか。

#### **緒方委員**

まだ、ヘリの方も行っている。できるだけ、いろんな資格が取れるように心がけている。種類が増えれば増えるほど、組み込むのも難しくなる。そのような悩みもある。

#### **谷口教諭**

八代農業高校に勤務していた6~7年前に、地域のJAにお願いしてラジコンヘリでの水稻の農薬散布をしてもらったことがある。最近は、その点がドローンに変わったりしているのか。そういうことは、JA本渡・五和でもやられているのか。

#### **吉本委員**

これまではラジコンヘリは天草管内に普及していなかったが、今年は試験的に

行った。ドローンに関しては、7つの営農法人のうち2つの営農法人が所有している。それで、実際に散布をしている。

#### 谷口教諭

機材的には、ラジコンヘリに比べてドローンの方がかなり安くなるのか。

#### 吉本委員

ある法人の話によると、ドローンが約200万円で、免許取得が25万円がかかる。免許取得については、JAと経済連から補助が出るので助かっている。ドローン購入については、天草市の方から補助等があるのでかなり助かっている。墜落等での修理代を考えた場合、委託した方が経費は安いと考えられる。ラジコンヘリの方はJA宇城が自前で購入され、天草の河浦地区からも委託を受けている。JA芦北も自前で購入して、いろいろと取組んでいる。水稻関係の防除については、全国的に水稻栽培は普通期であるが、早期水稻地区の天草は穴場であったということで、シーズン・オフの時期にドローンが活かせるということで、ドローンの委託先から打診があった。試験的に今年初めて行ったところ、予想より良かったので、今後普及はしていくと考えている。

#### 緒方委員

大きな農業法人をされているところに農大の学生も研修に行っているの、先日一緒について行ったついでに、「ドローンは、今後広がっていきますかね」と聞いたところ、「規模が大きければ大きいほどヘリの方がよい」と言われていた。ある程度の規模であればドローンかもしれないが、もっと大規模になるとヘリの方が望ましいと言われていた。

#### 「食品加工・流通部門」

#### 舟越教諭

地元の特産品に関する情報（加工特性等を含む）が少ないため、資料集に「原材料」の項目を入れた。また、「郷土料理」や「天草の食品関連産業」の項目は、生徒がこれらの特産品の加工例や地元企業の取組を知る事ができ、外部からの助言がほしい際に活用できるようにと思い加えた。資料集の項目の検討と内容に関する助言をいただきたい。

#### 「天草の食品関連産業」について

#### 井上委員

池崎醤油は、天草で古くからやっているお店で、現在は、新商品開発に取組まれている。エスポートは使われている機械など本格的なもので、人を使わず機械をできるだけ使うという方法も研究されているので面白い。

#### 「郷土料理や原材料」【芋】について

#### 井上委員

天草は芋の産地ではないが、天草に昔からなじみがあるため、歴史や郷土料理の名前の由来などを調べさせてみるのもおもしろい。また、干し芋は保存食でもあり、郷土料理「こっば餅」の原料でもあるため、製品としては良い。

#### 羽衣石委員

天草では、干し芋やがねあげ・こっば餅などがあまり売られていないと感じる。



イオンで販売している干し芋は中国産ばかりなので、天草産の干し芋などがあればひうちに欲しい。また、焼き芋を販売しているが、冬場の売れ行きは特に大きい。

#### **井上委員**

芋は、県下でも需要が高まっており、素材としてもとても可能性がある。

「天草でのその他の特産物」について

#### **井上委員**

天草と農産物が重なっている四国など、外の地域の特産品についても調査し、違いを比較するのも良い。

#### **井上委員**

最近ではキクラゲの需要も上がってきており、天草五和で菌床から育てて販売されている農家もある。ただ、加工用途は少ない。

「加工技術や価格設定やブランディング等」について

#### **井上委員**

冷凍食品を使う人が20%増えており、冷凍食品を作るための設備投資も、以前よりかなり安くなった。今後は冷凍が主流になってくると思うため、加工技術の一つとして知っておくと幅が広がる。

小売業側からすると、常温商品の方がストックできて扱いやすく、輸送コストも安いと喜ばれる。ただ、瓶は輸送時の破損やスペース確保の観点から、レトルトは設備投資がかなり必要なため、プラスチックが良い。

大手メーカーに価格では勝てないため、地元の製品などで差別化し、店の特色を出していく。郷土料理などは、大手と差を付けるためには有力なコンテンツになる。

珍しいものなどは、客も使い方が分からないのか意外と売れにくい。買ってすぐ食べられるものが売れる。

「ターゲットや販売製品の決定方法」

#### **羽衣石委員**

店舗の立地エリアで変える。小規模の店舗は、シングルの方の利用が多い。天草ブランドなどは、熊本市に住まれている方には魅力的であるため、熊本県内のおいしい商品などを集めたコーナーを作り、熊本県内の店舗限定にしている。

#### **井上委員**

最近、飲食店からは、ヒレの焼き目や魚の骨を抜くなどの注文が入る事が多いようだ。客のニーズに合わせ、そのような加工までできる会社が、今後のびていくかも。

(3) 閉会（各会場で閉会）

令和3年度（2021年度）文部科学省  
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）」  
第4回コンソーシアム会議（マザー・サークル）議事録  
熊本県立天草拓心高等学校

- 1 主催 熊本県立天草拓心高等学校コンソーシアム運営事務局  
2 期日 令和3年（2021年）11月22日（月）9：00～11：00  
3 方法 ZOOMによるWEB会議（オンライン）

4 出席者

(1) マザー・サークル委員

尚綱大学生生活科学部栄養科学科 准教授	川上 育代
熊本県立農業大学校 校長	中村 秀朗
天草広域本部 本部長	松岡 正之

(2) 熊本県教育庁県立学校教育局関係職員

高校教育課 課長	重岡 忠希
高校教育課 指導主事	小田原 健

(3) 熊本県立天草拓心高等学校関係者

校長	中村 洋介
教頭	泉 伸仁
教諭（農場長）	平木 慎二
教諭（研究主査）	藤井 隼人 他関係職員

5 議事等

(1) 議事

議案第1号「資料集：地域の未来を拓く種本（Future Seed Book）について」  
議案第2号「地域の現状から令和4年度に向けた課題等について」

6 会議の概要

(1) 開会

泉教頭が開会を宣言した。  
中村校長の挨拶  
重岡課長の挨拶

(2) 議事

○議案第1号「資料集：地域の未来を拓く種本（Future Seed Book）について」  
○議案第2号「地域の現状から令和4年度に向けた課題等について」

**藤井研究主査**

今年度は最終年度ということもあり、4月当初から地域内外に生徒たちが出  
学習を深めるという計画でいたが、7月30日から10月14日までの期間が蔓延  
防止等重点措置となり、郊外での学習が全面的に中止されるという状態になった。  
その中で、地域の事業所等に生徒たちが出ていくことが困難である中、オンライ  
ンによる外部人材との繋がりや近隣の人材に実習や演習をお願いした。蔓延防止  
等重点措置でできなかったことや挑戦できなかった事は、次年度以降に挑戦した  
い。先日行われた第31回全国産業教育フェア埼玉大会で、生徒たちの活動を生  
徒自身が発表するという機会があった。その際、全国の指定校の高校生達と、交

流をするという貴重な経験ができた。先週、天草市役所へ訪問し副市長や政策部長との前で、生徒が課題研究型学習の成果の発表を行い、次年度に向け行政機関としての支援体制等を約束してもらった。次年度に向けての課題として、今年度ももう少し取組みたかった事をまとめてみたい。生徒たちのこれまで2年間の学びを成果として、地域や地域外に発信することに重点を置いてきたが、なかなかできない状況にあり、生徒たちの学習の成果をまとめるまでには至っていない。生徒達はその都度改善等も含めて、現在どこまで達成できているかを研究成果発表会では発表させたい。今年度2年生のインターンシップについては、地域での実習を行うことができた。次年度以降は、学びの内容とリンクして、職業現場での体験学習を数回にわたって実施したい。今後はビジネス教室というものを、地域の人材でチームを作りやっていきたいと考えている。ビジネス教室はカリキュラム上に位置付け外部の講師にお願いし、課題研究型学習にリンクさせながら取組んでいきたい。課題研究型学習の成果をどのように地域に還元するか、高付加価値をつけた商品開発等も進めていけたらと考えている。本日は、今年度の課題について委員の皆様のそれぞれの専門分野に沿ったご意見等をいただきたい。

#### **藤井研究主査**

令和元年度からの2年間の取組等を踏まえ、令和4年度に向けた課題等についての意見をいただきたい。本年度の課題について渥美委員からお尋ねがあったが、こちらに関しては、それぞれの取組を実施するにあたり課題点がある。備考にいくつか書いてあるが、職場体験については年に1回もしくは2回と単発で行うことが多かった。今後カリキュラム上に組み込んで実施するならば、とても大掛かりな取組になる。次年度は他校の実施内容も参考にしながら、生徒達が授業でやった内容に沿った職場体験を実施していくと、職業観の育成に十分な経験ができる。ビジネス教室については、今年度コーディネーターの西島様からアドバイスをいただき、将来的に地域での起業や自営業を考えている生徒達の育成のため、週に1時間程度ビジネス教室を開講できればと考えている。先ほど天草市役所での成果報告があったが、これまでの学びを地域に還元していきたいというのが、非常に大きなテーマとなっている。どのようにして還元していくのか、そのやり方にもよるが、商品開発をしたら開発した時点で終わらない事がすごく大事だと思っている。地域の資源を使って良い物を作ったならば、地域の企業との連携をした特産品を、インターネット等を通して天草の魅力を外部に発信していきたい。天草の魅力を外部に発信できるようなサービスや商品を、生徒達が直接企業と連携して取組めたらと考えている。また、商品開発の成果を、企業での生産販売に繋げたい。地域全体を巻き込んだSDGsへの取組については、先ほどの市役所での報告に関連している。天草市の大江地域では、養豚業が盛んである。大江地域全体を巻き込み、デンソー様が持つ藻をテーマとして、養豚場の污水対策に地域全体で課題解決に取り組みたいことを、天草市役所ともタイアップして進めていきたい。

## 中村委員

ビジネス教室の開講について話があったが、農業大学校では熊本アカデミーという教室を地域版で開講している。農業大学校に相談してもらえば、出来るだけ対応していきたい。藤井先生からも高付加価値についての悩みがあったが、農業高校や農大というのは安いのが当たり前という消費者の感覚があり、その辺をどう変えていくかが我々にとっても非常に悩ましい。農大マルシェに来られる一般消費者は、学校の製品は安いのが当たり前という感覚があり、価格が高いと「なぜ」だという話ができる。学校で栽培する商品は安いのが当たり前という消費者の感覚を変えていかないと、高付加価値化を価格に転嫁することは厳しいと考えられる。

## 渥美委員

天草拓心高校出身で退職されたOBの方々にも声をかけて、天草のために協力してもらえるような取組ができれば大変良いと思う。また、将来は地域に貢献したいと言う方もいる。やはり、天草愛というものがあって、将来は天草に戻りコーディネーターの西島さんのように、地域でもう一度活躍できるような場面ができたらと考えている。商品開発の場合、お店に並べるよりもまずはインターネットで販売して、そこでいろいろな気づきを得て、その後、店舗に並べるというような流れに最近はなっている。

## 松岡委員

このビジネス教室は、備考欄に書いてある地域全体でチームを作りたいが報酬等が絡んでくるので難しいと言われていたが、すでにいくつか打診をされて、そういう地元の意見があるのか。イメージとしては子供たちと一緒にやって、無償でも何かやっていきたいという方が多いのではないかとイメージを持ったが、この報酬がないと厳しいということなのか。

## 藤井研究主査

無償でお願いしたいのはやまやまだが、報酬等が無いというところが難しい。次年度からスーパー・ハイスクールの話で連携の内諾はもらっているが、その中でも報酬の話はできにくい。

## 松岡委員

報酬や旅費は兼ね合いが難しい感じがする。天草は、元々地理的な条件不利地域である。だから大都市（消費地）に物を送ることそのものにハンディキャップがあり、最近では燃油高もあり、他の産地に比べ相当のコスト高の意識を持っておかないといけない。そこを、具体的にイメージできるかどうかは凄く大事な気がする。このビジネス教室で、先輩方のご苦労と言うか、どういう問題意識があるのかを直接聞くのはすごく大事な気がする。報酬等が必要ならば、経費として次の事業予算に組んで欲しい。

## 川上委員

先ほど申し上げられていた卒業生の方の地域人材チームというものが、高校生のやる気とか気づきに繋がっていくと改めて思った。この時期に、やっぱり正しい情報をしっかり提供するのでも大事だと思っている。資料作りでも、やっぱり言

葉ひとつひとつを大切にしていけないといけないと思うので、情報の提供というのは大切でもあり、責任感があると考えた。大学の中でも卒業生に説明をしてもらう時間をとってはいるが、卒業生とはいえ、やはり会社の中の一員なので報酬・交通費などを提供して来てもらう、感謝の気持ちを持ってもらうというのがやっぱり大事だと思う。

#### **重岡課長**

ビジネス教室の件が出ているが、管理機関として来年度に本事業を実用化する上で、スーパー・ハイスクール構想で予算獲得に向けて協議を進めているので、出来る限りしっかりとそこは支援していきたい。インターンシップのところでもあったが、時間割も工夫していただき、関連企業にデュアルシステムの形でインターンシップが繋がるように学校でも検討いただきたい。ビジネス教室の開講に向けては、販路拡大や様々な商業的な学びも入ってくるので、ぜひ商業科ともしっかり学校内で連携をしてもらい、学校としてビジネス教室や生産物の高付加価値化などが取り込めるような教育課程の工夫をお願いしたい。

#### **藤井研究主査**

4つの専門分野のグループに分かれ、各グループは各議員の方々と本校職員で構成を行った。その中で資料集の内容について議事を行った。今後、天草の未来を考えた時に、こういう内容を盛り込んで欲しいとか、今現在の最新の情報はこれだとか、地域特有の情報などを盛り込んでいきたい。

現在の1・2年生又は新入生が見た時に、自分もこういう活動をやりたい。または、課題解決の糸口はこうだ。そういう気づきや興味関心につながって欲しいと考えている。第3回コンソーシアム会議の議事の内容を見ていただき、意見や指導をいただきたい。

#### **松岡委員**

地域の概要のところでは、今は天草市だけの現状課題が書き込んであるが、これは上天草市や苓北町も含めるのか、それとも、天草市を例示として作っているのか。

#### **藤井研究主査**

まずは天草市を取り上げ、比較対象もできるようにその他の地域も入れていきたいと考えている。天草地域の現状を知らない生徒もいるので、生徒たちに地域を知ってほしい。

#### **松岡委員**

天草の課題認識が大事と考える。人が減ってきている、年寄りが増えている、耕作放棄地が増えてきている。天草は消費地から遠く、条件的に不利な地域であるという厳しい現状を生徒には理解してもらいたい。

#### **川上委員**

加工品に関しては天草の特産品が出ているので、その特産品の関連企業はここだけではないと思う。例えば、天草の葡萄というのも最近知り、ワインとかも有名になったと知った。加工資源と加工の関連企業とをタイアップして書くと見やすくなると思う。

### **重岡課長**

ビジネス企業の内容が一般論的な内容になっているので、ベンチャーでの取組や学校がこんな形で応援してもらっているなど、新たなビジネスチャンスに繋がる起業家の方々の取組も盛り込んでもらいたい。

### **中村委員**

資料集の中の写真は、何を意図しているのかわからない部分があるので、資料の写真にはコメントをつけた方がよい。生徒もわからない部分もあると思うので、もう少し整理された方がよいと思う。

### **松岡委員**

巻末資料だけでもいいと思う。いろんな相談窓口だったり、支援機関だったり、行政がやっている支援策、それぞれからの情報というのは大事だと思うので、最後の参考資料でもいいので載せていただきたい。

### **藤井研究主査**

資料をまとめる中で我々が一番苦労したのが、企業さんであったり、農家さんであったり、経営状況等の実践例と言うか、中身についてまとめる事について非常に今苦労している。詳しい事まで教えて欲しくても、農家や企業は企業秘密となりなかなか教えてもらえない。

### **中村校長**

農業コンクールに天草地域からもたくさん出られて優秀な方々がたくさんいる。経営部門や新規就農部門もあるので、そういうものに関しては、ある程度公表されたものもあるので、本人の了解を得れば写真や資料を含めたところで、経営のポイントを出すこともできると思うので、普及センターの方に相談されると資料も出てくると思う。農協では青壮年の活動の発表会があり、公表した資料の中には経営の概要を載せたものもあるので、そういうものも活用されたらどうかと思う。

### **渥美委員**

他府県で柑橘類を買うと熊本産と書いてあり、天草産とは書いていない。ビジネススクールをやっていくには、この天草のみかんっていうのを差別化できるような宣伝とか、味付けとか、それで商品性っていうのを学んでいけるような地域差別化できるような教育をぜひやっていただきたい。熊本というものに埋もれてしまうと、天草というものが見えなくなってしまう気がする。

### **藤井研究主査**

この資料集のネーミングを「フューチャー・シードブック」と名付けてよいか。中学生にも見せたいのでポップなネーミングにした。

### **重岡課長**

中学生とかにも見せられるのであれば、今、取組まれている高校の課題研究とか、そういったものも関連の所にしっかり載せてもらおうと周知が広がると思う。

## **(3) 閉会**

泉教頭が閉会を宣言

令和3年度（2021年度）文部科学省  
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）」  
第1回「運営指導委員会」議事録

熊本県立天草拓心高等学校

- 1 主催 熊本県教育委員会（管理機関）
- 2 日時 令和3年（2021年）9月10日（金）  
午前10時00分から正午まで
- 3 実施方法 オンライン会議（ZOOM）
- 4 出席者
  - (1) 運営指導委員（4名）

有限会社木之内農園	取締役会長	木之内 均
国立大学法人熊本大学	准教授	高崎 文子
株式会社ココファーム	部門長	津留崎 恵美
有限会社マツイアンドパートナーズ	代表取締役	豊田 希
株式会社農テラス	代表取締役	山下 弘幸
株式会社吉次園	代表取締役	前田 正明
  - (2) 熊本県教育委員会（3名）

	課長	重岡 忠希
	審議員	米村 祐輔
	指導主事	小田原 健
  - (3) 熊本県立天草拓心高等学校（9名）

	校長	中村 洋介
	教頭	泉 伸仁
	研究担当者	他6名
- 5 議事等
  - (1) 議案

議案第1号	運営指導委員会会長及び副会長の選出について
議案第2号	令和3年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」における本校の取組について
議案第3号	コンソーシアムで作成する資料集の作成について
- 6 会議の概要
  - (1) 開会  
小田原指導主事が開会を宣言  
管理機関として重岡課長より挨拶  
指定校として中村校長より挨拶
  - (2) 議事  
**○議案第1号 「運営指導委員会会長及び副会長の選出について」**  
運営指導委員会設置要項第3条の2項に従い、管理機関より木之内委員を指名し承認された。

木之内会長より高崎委員を副会長として指名し承認された。

○議案第2号 「令和3年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」における本校の取組について」

**木之内会長**

令和3年度の事業計画等の説明を天草拓心高校担当者からお願いする。

**藤井研究主査**

研究成果発表会を、令和3年12月17日（金）に開催予定。その後、令和4年2月18日（金）に最終のローカルサークルの会議を経て、令和4年度に向けて本校の取組みを再確認するという流れで構成をした。

今年度の重点目標を、次の5つに絞った。

《重点項目及び取組内容》

- (1) 天草を変化するための具体的方策を地域と共に形にする。
  - ・生徒の卒業後の出口を、地域と一緒に考える。
  - ・進路指導に重点をおく。（進路選択の際のミスマッチをなくす）
- (2) 起業及び就農のための学習を強化する。
  - ・プロジェクト学習を中心に、起業・就農に関する内容を盛り込み、経営シミュレーション体験化。
  - ・経営に関する学習も取り入れながらビジネスプラン等作成させ、コンテストなどへ挑戦。
- (3) グローバル課題（SDGs）と関連付けた地域課題の学習
  - ・プロジェクト学習に関しては、グローバル課題（SDGs）に関する目標を掲げた。
  - ・各グループ、又は全体を通して、SDGsに関する講演及び講座の開講。
- (4) これまでの学習の成果を形にする（各種コンテスト等への挑戦・メディアへのPR）
  - ・現在取組んでいるプロジェクト学習の内容を、各種高校生対照のコンテスト等に挑戦させ目に見える形で完成させ、生徒たちの自信に繋げたい。
- (5) AOLA（天草拓心版オーダーメイド学習評価法）の完成
  - ・令和3年度の取組としては、観点別評価を用いて各科目の目標、又は評価基準等を明確にし、生徒たちに目標設定をしやすくする。自己評価と教職員側からの評価の相対評価による生徒の変容等、アンケートを通して進めていきたい。今年度に関しては、この観点別評価による学習評価にもつなげていく予定にしている。今年度の取組に関する活動項目ごと、重点目標に沿った計画の期待値とて、項目ごとに設定を行った。



次に事業運営を行ううえで、困難だと思われる点を挙げさせていただく。1点目は、コロナ禍で活動を制限されること。天草管外での活動においては生徒の保護者（特に医療関係者など）からの同意が得られにくく、天草管内の活動においても制限がある。生徒によるフィールドワークに制限がかかる状況下で、実戦経験を伴う職業観の育成を進めるためには工夫が必要になる。2点目は、地域に対する学習発表の場が非常に少ないということ。校内でも情報共有し、今後どのようにして地域に発信していくのかを具体的に考えたい。本日はこれらの点を含めて、委員の皆様からのご意見を頂戴できればと考えている。

続けて、先日行われたコンソーシアム会議の内容を説明する。第1回ローカルサークル会議（5月27日）にて、以下の議事をご提案し、「天草の課題及び魅力から学ぶ資料集の作成」と題して委員の皆様と共有を行った。この協議をもとに、第2回マザー・サークル会議（6月9日）において、さらに協議を深めた。

《議案 天草の課題及び魅力から学ぶ資料集の作成の目的》

- (1) 生徒の学習の補助教材としての作成
- (2) 1年次に地域理解及び地域課題の発見に繋げる
- (3) 教科書やインターネットでは得られない情報源
- (4) 資料を用いて、興味・関心を得たことを課題研究型学習に繋げる
- (5) コンソーシアム全体で共有し、人材育成のために作成することの必要性

#### 質疑応答

##### 木之内会長

今年は3年目であり、まとめ方などについてもいろいろあると思う。今年度予定している取組について、質問やご意見があれば伺いたい。

##### 山下委員

盛りだくさんの内容で、先生方の努力とご苦勞をお察しした。3年目を迎えたが、コロナ禍という状況もあり、初年度に比べると明らかに状況が変わった。目的を遂行するにあたって、非常にイレギュラーな部分もあったと思う。

今回の5つの重点目標の中で、まず注目してもらいたいのは、SDGsである。非常にタイムリーで、生徒たちにとっては我々の世代よりも興味があることと思われる。次に注目すべきなのは、事業運営の困難さである。藤井教諭の話しにもあった通り、医療関係者の絡みも含め、管外活動が実施しにくいというシビアな課題がある。実践経験に伴う職業観の育成ができないことで、本来の目標・目的である部分を阻害されていると感じた。学習発表の場がないという点に関してだが、今の学生が社会に出て行く時はリモートワークなどが普通という時代になると思われる。そのため、もっとオンラインを活用し、オンラインでの活動を含めた職場感を今

のうちから得ておくことも不可欠だと考える。また、YouTubeでの発表の場も大事だが、オンライン上での発表の場というのも考えられたらどうか。

#### **木之内会長**

現在、「オンライン」と「フィールド」のウエイトは、どのくらいか。

#### **藤井研究主査**

地域に出かけて情報収集を行える機会は一応ある。一方、地域の老人会や年輩等に関しては、オンラインを見る機会が少ないため、現時点で、地域に向けたオンライン学習発表を行うのは厳しい。地元の天草ケーブルテレビにお願いして、本校での取り組みや成果などを地域の方へ知らせていきたい。

#### **高崎委員**

最後に資料集作成の話がされたと思うが、これはすごい事だと思った。成果をある程度の形にして後輩の生徒に伝えることで、「このプロジェクトで学ぶとこうなれる」という姿を示すことができる。最初の意欲・関心を引き出し、動機付けを行うツールとして、良い発想だと思った。現在、「アクティブ・ラーニング」や「主体的な学び」などが学校現場で言われているが、最初の意欲を引き出す仕掛けは凄く重要である。

#### **木之内会長**

今年度は、本事業の最終年度（3年目）になる。そのことを踏まえて、本日は3項目に分けて協議を進めていきたい。1つ目は、これまでの2年間の取組と今年度の取組について。2つ目が、AOLA（天草拓心版のオーダーメイド学習評価表）について。3つ目が、ローカルサークル・コンソーシアム「天草の課題及び魅力から学ぶ資料集」について。これらの事について、これまでの2年間を振り返りながら、ご意見をお願いしたい。  
※3つ目に関する競技は、議案第3号として記載する。

#### **木之内会長**

コロナ渦が続いているが、今年度の12月の発表について、学校側はどのように考えているか。対面形式での実施は考えているか。

#### **藤井研究主査**

生徒たちの成長を形として見てもらうためにも、ぜひ対面でやりたいと考えて計画を進めている。最終年度は、地域の方や保護者の方、また全国の農業高校へ向けてオンラインでも発信していきたい。

#### **木之内会長**

どう配信していくかによっては、広く多くの人に知ってもらう機会になると思う。

#### **豊田委員**

以前、学校やYouTubeで、商品開発などいろいろな事について発表をされていたが、今でも継続して研究に取り組んでいるのか。

#### **藤井研究主査**

継続的に研究を進めている。

**豊田委員**

その成果が12月に発表されるということか。以前、学校で発表された内容と前回のYouTubeの内容が結構違っていたが、何がどう変わっていくのか。

**藤井研究主査**

基本的には、生徒たちが1年生から2年生にかけて取り組んだ内容等に対し、目標を持って引き続き取り組んでいる。

**木之内会長**

次にAOLAに関して、天草拓心版の「オーダーメイド学習評価法」と記載されているが、皆さんからのご意見を伺いたい。ポートフォリオから目標設定の部分については、ほとんど先生方が作っていくのか。

**藤井研究主査**

我々が作成します。

**豊田委員**

変えるということは、何か課題があったから変えるのか。

**藤井研究主査**

これまでは、ほとんどが生徒たちによる自己評価、自己認識に基づいて生徒たちの変容等をとらえてきた。今後、観点別に評価をしていくためには相対評価が必要と思われる。我々が評価したいところに、生徒がどう目標を設定してどう取り組んでいくのか、そちらを評価していきたい。

**高崎委員**

相対評価というのは「クラスや学校の中でどの位置にいるか」という位置づけを表す評価だが、ルーブリックを使うと相対評価とは異なり「その生徒が前よりどれだけ伸びたか」を表す評価になる。その点については、使い方をどのように考えられているか。

**藤井研究主査**

高崎委員が言われていた後者の方を行いたいと考えている。「3年間の学習を通して何ができるようになったか」「何が自分にはできるのか」「何がしたいのか」を生徒達が数値化し、目に見える形にすることで、進路実現に大きく関わってくると考えている。そのような評価法に変えていきたい。

**高崎委員**

ルーブリックを活用することで、各生徒の評価と成長が、先生方及び生徒個人で把握でき、次につなげられる。方向性がすごく良い。ルーブリックを使った目標設定をするということだが、ルーブリックは全員共通の「こうなって欲しい」という先生方からの基準となり、「私はこの点を頑張ろう」と生徒が考えた部分が個人目標になるのか。

**藤井研究主査**

授業の中でルーブリックを設定するので、知識技術に関して「ここまで

はやりたい」「達成したい」というようなものを自己評価でと考えている。今年度中には、生徒自身でループリックを作り、自分で目標設定をさせたい。そして、達成できたことを、次の学習にフレッシュアップさせるところまでもって行きたい。

#### **高崎委員**

生徒が取り組んでいる様々な経験やプロジェクトがあるが、その取組一つ一つを客観視できると、「ここまで成長できた」「さらにこうなりたい」等をしっかり把握でき、より力をつけるための支援ツールになると思う。ぜひ完成させてほしい。

#### **木之内会長**

高崎委員が言われていた事は、相対評価というか、1つの基準作りのようなものと思う。確かに1つの基準を設定することは大事である。ループリックの中でも、課題によってかなりループリックになる部分が違ってくるため、柔軟な形での1つの目標というか、基準作りをしていくのは非常に良い。

#### **木之内会長**

2年間の取組の中で、生徒がしっかりした目標設定を行えるようになったか。また、それが生徒の将来に対する目標などに繋がっているか。

#### **藤井研究主査**

自分に何ができるかということに対して、生徒たちにも自覚が生まれてきている。現在の3年生の中には、非農家だが将来的に就農を考えているという生徒もいると聞いている。

#### **木之内会長**

専門高校から来た学生の方が、目標がはっきりしていて伸びる。本校の農学部の学生を見ていると、推薦で農業高校から入った学生は入学当初は学力的に苦労する場合もあるが、4年間見ていると成長する。それは、目標意識がはっきりしているからだと思われる。一方で、一般入試を受けて入学した学生には、卒業時に将来自分が何をやっていいのかわからない者が多く、両者の違いが顕著に現れている。高校生の時から、しっかりとした目標設定を自分なりに考える事の大切さを感じる。

### **○議案第3号 「コンソーシアムで作成する資料集の作成について」**

#### **質疑応答**

#### **木之内会長**

次に、「天草の課題及び魅力から学ぶ資料集の作成」に対して、ご意見・ご質問等があればお伺いしたい。

#### **山下委員**

生徒達の問題意識・課題意識を掘り下げる事は、すごく難しい。コンソーシアムに参加する時にイメージしていたのは、2030年の未来である。2030年を楽観すると問題意識がなくなるため、2030年を悲観

し課題を掘り下げること、「天草やばいぞ」と思ってもらわなければ目的は出てこない。この資料集の作成は、ある意味で「天草2030年構想図」になると思う。

#### **木之内会長**

高校生に未来を考えさせることは難しいし、日頃はこういった機会も少ない。未来の自分や課題などに触れる機会になって良い。

#### **前田委員**

資料集で指針を示し、生徒の心にひっかかるようなキーワードを入れると、日々の生活の中で課題を考えられるようになり、将来につながるきっかけになると思う。これまで存在しなかったものでもあるため、この資料を作る価値はある。

#### **豊田委員**

地元の良さに気づいていない地元人が多い。地元の良さに気づけるような資料になると良い。新しい情報が更新されていくことも素晴らしい。積み上がっていくことで、よりよい物になっていくだろう。

#### **津留崎委員**

今までの魅力や新しい情報交流なども通して、資料作成だけでなく人生にも役立つ力を身につける良い機会になると思う。

#### **木之内会長**

高校生が核となって、地元や企業のつながりを担う者として価値がある。

#### **山下委員**

天草が抱える課題は対比でしか見えてこない。ビジネスから見ると、お金を稼がなければならない。島内だけで経済を回して行くことはできないため、外からの流れを作ることが大切。さらには、GAPなど国際的な視点で物事を見る事も大切。

#### **木之内会長**

今まで金銭面で考えることはなかったが、生活を成り立たせ経済を回すことは、天草で生きていくうえでは不可欠な要素である。その点も含めて、将来の天草を考える事ができるようにしなければならない。生徒が諦めることなく、チャレンジするきっかけにならなければならない。2030年、10年後を見据えて育っていくことができる資料集にしなければならない。また、地元で就職することも大切だが、それが正しいとは限らない。なぜなら一度外に出ることで理解でき、見えてくる魅力という物があるからだ。客観的に、地元の良さに気づける力をつけることが重要である。

資料集のまとめかたとしては、天草の変えるべき部分と変えてはならない部分を意識してほしい。時代とともに変わっていくことや、守っていくことについても考えなくてはならない。

#### **前田委員**

課題で出てくるのは、「若手がいない」「選ばない3K」や「所得面」などである。しかし、それらに該当していても、見通しが立つと目標設定がし

やすく将来にもつながりやすい。所得や資産形成などに、必要な力をつけられるようにした方が良い。将来の生活に見通しを持たせられるものにしていくけたらと思う。天草の良さはたくさんある。

#### **木之内会長**

島根の沖の島など、若手が多く入っている成功事例もある。天草にも空港があり利便性も高い。しかし、変えていく事や新しい事を始める事の難しさがある。地域から盛り上がっていかねば変わりにくい。新しい事を始めて、地元からわくわくするような発信をしていければ面白いと思う。それが達成できれば、生徒にとっても良い思い出となり、今後も挑戦する意欲につながる。

#### **藤井研究主査**

各企業がSDGsを試みているが、実感がわきにくい。生徒が身近に感じられるような取組などはないか。

#### **前田委員**

大企業は取り組んでいるが、中小企業は中々取り組みにくい状況である。取り組み自体は格好いいが難しい。

#### **山下委員**

本末転倒にならないようにしなくてはいけない。SDGsのために取り組むのではなく、普段の取り組みの中でSDGsを発見していく。SDGsは意識すべき事だが、主として行なうものではない。なお、取組例としては、マルチをしない植え付け等がある。

#### **豊田委員**

石けん作りにおいては、環境のことを考えた素材を見つけて作っている。気づけばSDGsに該当していたということも多い。意識しつつも、主体的な取り組みを行う事が重要だと思う。

#### **津留崎委員**

取組みたいが、コスト面などから難しいこともある。普段の中でSDGsを見つけることから始めてみるのも方法の一つである。

#### **木之内会長**

カーボンニュートラルから新しいエネルギーを作る難しさ。持続可能な取り組みが企業をつぶしてしまうことにつながる。しかし、政府の圧力も強く、変わらざるを得ないと言うのも事実である。国際競争も激しく、避けては通れない壁として立ちはだかっているため、まずは小さな事から変えて取りむと良い。変化というより改善。小さな改善を、全体に関わる大きな変化につなげることはできると思う。

今年は総括の年、資料作りと基準作りが今後の指針となればと思う。今回様々な意見が出たのでこれらをまとめ次回を楽しみにしていきたい。

### **(3) 閉会**

木之内会長が閉会を宣言した。

令和3年度（2021年度）文部科学省  
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）」  
第2回「運営指導委員会」議事録

熊本県立天草拓心高等学校

- 1 主催 熊本県教育委員会（管理機関）
- 2 期日 令和3年（2021年）12月22日（水）
- 3 場所 熊本県立天草拓心高等学校 会議室
- 4 出席者
  - (1) 運営指導委員（4名）

有限会社木之内農園	取締役会長	木之内 均
株式会社ココファーム	部門長	津留崎 恵美
有限会社マツイアンドパートナーズ	代表取締役	豊田 希
株式会社吉次園	代表取締役	前田 正明
  - (2) 熊本県教育委員会（3名）

	課長	重岡 忠希
	審議委員	米村 祐輔
	指導主事	小田原 健
  - (3) 文部科学省（3名）

	室長補佐	高橋 信雄
	教科調査官	鈴木 憲治
	産業教育係	田中 麻里
  - (3) 熊本県立天草拓心高等学校（4名）

	校長	中村 洋介
	教頭	泉 伸二
	研究担当者	他2名
- 5 議事等
  - (1) 議案

議案第1号	研究項目の取組や評価について
議案第2号	コンソーシアムで作成する学習成果の資料集（シートブック）について
議案第3号	令和4年度の取組について
- 6 会議の概要
  - (1) 開会  
泉教頭が開会を宣言  
管理機関として重岡課長より挨拶  
指定校として中村校長より挨拶
  - (2) 議事  
○議案第1号 「研究項目の取組や評価について」  
質疑応答

### 木之内会長

研究の取組と評価についてはどうか。

### 津留崎委員

せんだご汁の商品化がある程度進んでおり、馬糞の堆肥の商品化に関しても綺麗な流れができていた。全体を通して様々な取組があり、今後が楽しみである。

### 豊田委員

目標設定と成果がしっかりとなされていた。地元での進学先や就職先が少ないとのことだったが、仕事はなくても自らが強みを持っており、起業も可能であると感じた。

### 前田委員

開発や研究に取組む際、「なぜその商品を選んだか」というマーケティングの技術的な視点があるとよい。現実と摺り合わせて商品を作れるようになると成功しやすくなり、生徒の将来にも使える。プレゼンの説得力も高まる。

### 木之内会長

3年間の取組で、どのような変化があったかを教えてほしい。

### 藤井研究主査

最初は、生徒の受け身姿勢であったが、委員からのアドバイスや紹介を経て、主体的に取組む事ができるようになった。同時に、地域住民の関心も高くなっているという実感がある。

### 木之内会長

生徒は3年ごとに変わるが、教育（学校）と地域との摺り合わせをどのようにしているか。

### 平木研究主任

地域が学校や生徒に求めるレベルは高くなってきている。カリキュラム上の課題はあるが、1年生から3年生までの縦のつながりをより深いものとし、協力していければ、良いものができると感じている。

### 津留崎委員

専門高校の視点は面白いものがある。本事業の取組の中で、地域の課題に向き合いながら学習に取組むことができ、生徒の今後の進路にも活かせるものが多い。期待値は高いと感じる。

### 前田委員

こんなものがあつたらいい、ぜひこういった取組をしている高校と交流したいと感じた。企業でも様々な課題があるため、若者との交流を通して一緒に解決できればと思う。また、その交流が企業にとって大切な雇用につながり、さらには生徒の進路にもつながる。後輩を応援したいという気持ちもある。この取組は、教育的視点と超実践的視点の両方において、他の高校と差別化できる部分である。生徒募集や生徒の人材育成など、様々な場面で活かすことの出来る。他での実践例も少ないため、中学生にとっても、この取組に魅力を感じるであろうし、進路の選択肢も増えると思われる。経営者目線



では、面白い取組だと感じている。

**豊田委員**

せっけん作りに関わったが、商品化への強い意志があるかを確認する必要がある。教育教材として出すのか、実際に社会に商品として出すのかという部分が少し気になった。世の中に出して、ブランディングしていくという形として残す。そういう事がすごく大事である。

**○議案第2号 「コンソーシアムで作成する学習成果の資料集（シートブック）について」**

**質疑応答**

**木之内会長**

シートブックの発想についてはどうか。

**藤井研究主査**

「学びの成果を1冊にまとめる」という面白さを強く感じた。この資料を通して、地域に関する様々な事に触れ、地元愛の醸成と1年次の学びのきっかけになれば良い。生徒が課題解決のヒントとして活用できるような資料になることを目標に作られている。今後、全学科で取組み積み重ねていくことで、より良い資料にしていきたい。

**平木研究主任**

生徒のコミュニティが広がった。そして、生徒が大人と関わった時間が、自己肯定感を高めるきっかけになった。このつながりを、これからも大事にしていきたい。

**木之内会長**

高校で、これほど産業分野と繋がることはない。この取組が高校の魅力醸成になっている。社会には、勉強だけでは答えが出せないものがある。そのような問題に対して取組む力がついたと思う。

**平木研究主任**

生徒の取組を地域にも知っていただきたかったが、今回はコロナ禍の影響で実施できない活動が多々存在した。この事を踏まえ、このような状況下で地域とのつながりをどのように作っていくかも、課題の一つであると感じた。

**○議案第3号 「令和4年度取組について」**

**質疑応答**

**木之内会長**

次年度の取組についてはどうしたいか。

**津留崎委員**

企業でも横のつながりで見つかるものは多いため、横の連携を意識した取組が進んでいくと良い。

**前田委員**

国の指定から高校独自の取組として内部化していくが、教員も異動で変わ

っていく。そういう面も含めて今後どうつなげるか考えていただきたい。

#### **豊田委員**

商品化するのには良いが、作って満足するだけではいけない。「コンクールへの挑戦」や「地域に愛される」といった、客観的な視点を取り入れた商品作りをしていくと良い。

#### **木之内会長**

予算はどうであったか。

#### **藤井研究主査**

初年度が650万ほどであり、2年目以降が330万ほどであった。

#### **木之内会長**

今後は予算も変わるが、継続についてはどうするのか。企業としては、これらの取組に魅力を感じるため、予算を出したいとは思いますが、教育現場でも予算については考えなくてはならない。

#### **中村校長**

市としても、地域高校全体で出していきたいという計画はある。

#### **高橋室長補佐**

教育分野と産業分野が交流するための仕組み作りは連携し、予算の件も踏まえて話を進めている。良い事業であっても、売れ行きや経済への影響度合いなど結果も求められるため、継続する上でハードルとなる面は多い。

#### **前田委員**

何かを始めるにしてもその事柄に対して詳しい人が必要となる。また、事業があるがアイデアが無い場合もある。互いが求めているものと提供できるものを上手にマッチングできるようにすると良い。

#### **泉教頭**

今後、「せんだご汁」が非常食として出回る予定である。また、「あまりん焼き」も販売間近である。学校での利益となると「公金」となるので難しい。

#### **木之内会長**

お金の扱い方、利益の考え方など難しいものがある。高校生ならば、なおさら難しい。しかし、これらの事業の中で成長を見込める部分も多いので、教育として、今後の産業人育成や経営者の視点を養える場として商品開発は面白い。利益につながる商品を作るのは本当に難しいが、子供の持つ「新しいものを作る」といった感性を育てることは楽しみな部分もある。他者の厳しい目で見てもらい、自己満足で終わらない商品作りをできるよう教育していく。売り上げの考え方についても、育てていけばいいと思う。

#### **鈴木調査官**

生徒たちは様々な取組を行い、同時に様々な事業を知ることができている。しかし、いざ進路決定の段階になると、高校の求人では限界がある。企業との連携を通じて、求人増加など、生徒の進路につながるような事も考えていかなければならない。

今回の事業を進路にどう関連付けていくかを知っていききたい。今回の事業

で、生徒が自ら調査・実践し、様々な方々や企業と交流したことは、生徒の視野を広げることにつながったと思う。産業や農業経営者育成につながるものにもなっている。さらに、シードブックとしてまとめられることで、今後の生徒の指針にもなり、教育課程にも取り入れられていく。様々な教科の学習活動にも活かすことができる。この事業は、様々なことにつながっていくのだと感じた。

#### **藤井研究主査**

生徒の成長を実感できた。高校生自身が、地域の方に新しい発見や気づきを与えることもできた。商品開発の難しさや地域の課題はまだ多くあるが、今後も継続して事業に取り組み、未来につなげていきたい。

#### **木之内会長**

互いが良くなるような関係作りが必要である。連携するからには、お互いが求める部分がある。意見を言い合い、学校が求めるもの、企業が求めるもの、地域の課題等を考えて、多くの課題の解決につなげられると良い。今後もこの事業を継続してほしいと思う。

### **(3) 閉会**

泉教頭が閉会を宣言

令和3年度(2021年度)教育課程表			熊本県立天草拓心高等学校【本渡校舎】											(全日制)定時制・通信制	
学科			生物生産科												
入学年度			令和3年度(2021年度)入学				令和2年度(2020年度)入学				平成31年度(2019年度)入学				
令和3年度(2021年度)現在学年○印			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	計	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	計	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	計	
類型(コース)			全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
教科	科目	標準単位													
国語	国語総合	4	3	3		6	3	3		6	3	3		6	
	現代文A	2			3	3			3	3			3	3	
地理歴史	世界史A	2			2	2			2	2			2	2	
	地理A	2	2			2	2			2	2			2	
公民	現代社会	2		2		2		2		2		2		2	
	*天草学	2		B2		0,2		B2		0,2		B2		0,2	
数学	数学I	3	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	
理科	科学と人間生活	2	2			2	2			2	2			2	
	化学基礎	2		2		2		2		2		2		2	
	生物基礎	2			3	3			3	3			3	3	
保健体育	体育	7~8	2	3	2	7	2	3	2	7	2	3	2	7	
	保健	2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	
芸術	音楽I	2	▲2			0,2	▲2			0,2	▲2			0,2	
	書道I	2	▲2			0,2	▲2			0,2	▲2			0,2	
外国語	コミュニケーション英語I	3	3	2		5	3	2		5	3	2		5	
	英語表現I	2			D2	0,2			D2	0,2			D2	0,2	
	英語会話	2			2	2			2	2			2	2	
家庭	家庭総合	4	2	2		4	2	2		4	2	2		4	
情報	社会と情報														
各学科共通教科計			19	17,19	14,16	50,52,54	19	17,19	14,16	50,52,54	19	17,19	14,16	50,52,54	
農業	農業と環境	2~6	4			4	4			4	4			4	
	課題研究	2~6			3	3			3	3			3	3	
	総合実習 (時間外)	4~12	4	2,A2	2	8,10	4	2,A2	2	8,10	4	2,A2	2	8,10	
			(2)	(2)	(2)	(6)	(2)	(2)	(2)	(6)	(2)	(2)	(2)	(6)	
	農業情報処理	2~6	2		2	4	2		2	4	2		2	4	
	野菜	2~8		2	◎4	2,6		2	◎4	2,6		2	◎4	2,6	
	果樹	2~8		2	◎4	2,6		2	◎4	2,6		2	◎4	2,6	
	草花	2~8		2	◎4	2,6		2	◎4	2,6		2	◎4	2,6	
	畜産	2~12		2	◎4	2,6		2	◎4	2,6		2	◎4	2,6	
	農業機械	2~6			C2	0,2			C2	0,2			C2	0,2	
食品化学	2~8		B2	D2	0,2,4		B2	D2	0,2,4		B2	D2	0,2,4		
生物活用	2~6			2	2			2	2			2	2		
商業	簿記	2~6		B2		0,2		B2		0,2		B2		0,2	
	原価計算	2~4			D2	0,2			D2	0,2			D2	0,2	
家庭	子どもの発達と保育	2~6			D2	0,2			D2	0,2			D2	0,2	
	生活と福祉	2~6		B2		0,2		B2		0,2		B2		0,2	
専門教科計 (時間外)			10	10,12	13,15	33,35,37	10	10,12	13,15	33,35,37	10	10,12	13,15	33,35,37	
			(2)	(2)	(2)	(6)	(2)	(2)	(2)	(6)	(2)	(2)	(2)	(6)	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	
総探	総合的な探究の時間	3~6													
自立活動	*ライフスキル			1	1	2		1	1	2		1	1	2	
合計			30	30,31	30,31	90~92	30	30,31	30,31	90~92	30	30,31	30,31	90~92	
			(2)	(2)	(2)	(6)	(2)	(2)	(2)	(6)	(2)	(2)	(2)	(6)	

注1:▲、◎はその学年で1つずつ選択する。  
注2:A、Cは総合選択科目の自学科選択科目、B、Dは総合選択科目の他学科選択科目であり、AかB、CかDをその学年で1つずつ選択する。  
注3:3年次の他学科選択科目D2「食品化学」は2年次のB2「食品化学」を履修していることを原則とする。2年次に基礎的内容を履修し、興味・関心により、3年次に実践的内容を履修する。  
注4:各学科共通教科「公民」科目「天草学」は学校設定科目である。  
注5:「総合的な探究の時間」3単位は、専門教科「農業」科目「課題研究」で代替する。  
注6:各学科共通教科「情報」科目「社会と情報」は、専門教科「農業」科目「農業情報処理」で代替する。  
注7:自立活動「ライフスキル」は、通級による指導対象者のみとする。

令和3年度(2021年度)教育課程表			熊本県立天草拓心高等学校【本渡校舎】								(全日制・定時制・通信制)			
学科			食 品 科 学 科											
入学年度			令和3年度(2021年度)入学				令和2年度(2020年度)入学				平成31年度(2019年度)入学			
令和3年度(2021年度)現在学年○印			①	Ⅱ	Ⅲ	計	I	②	Ⅲ	計	I	Ⅱ	③	計
類型(コース)			全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
教科	科目	標準単位	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
国語	国語総合	4	3	3		6	3	3		6	3	3		6
	現代文A	2			3	3			3	3			3	3
地理歴史	世界史A	2			2	2			2	2			2	2
	地理A	2	2			2	2			2	2			2
公民	現代社会	2		2		2		2		2		2		2
	*天草学	2		B2		0.2		B2		0.2		B2		0.2
数学	数学I	3	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6
	数学A	2			◎2	0.2			◎2	0.2			◎2	0.2
理科	科学と人間生活	2			2	2			2	2			2	2
	化学基礎	2	3			3	3			3	3			3
	生物基礎	2		2		2		2		2		2		2
保健体育	体育	7~8	2	3	2	7	2	3	2	7	2	3	2	7
	保健	2	1	1		2	1	1		2	1	1		2
芸術	音楽I	2	▲2			0.2	▲2			0.2	▲2			0.2
	書道I	2	▲2			0.2	▲2			0.2	▲2			0.2
外国語	コミュニケーション英語I	3	3			3	3			3	3			3
	コミュニケーション英語II	4		3	3	6		3	3	6		3	3	6
	英語表現I	2			D2	0.2			D2	0.2			D2	0.2
家庭	家庭総合	4	2	2		4	2	2		4	2	2		4
情報	社会と情報	2												
各学科共通教科計			20	18,20	14,16,18	52,54 56,58	20	18,20	14,16,18	52,54 56,58	20	18,20	14,16,18	52,54 56,58
農業	農業と環境	2~6	2	B2	D2	2,4,6	2			2	2			2
	課題研究	2~6			3	3			3	3			3	3
	総合実習 (時間外)	4~12	2	A2	2	4,6	2	A2	2	4,6	2	A2	2	4,6
			(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)
	農業情報処理	2~6	1	2		3	1	2		3	1	2		3
	食品製造	2~10	2	3	4	9	2	3	4	9	2	3	4	9
	食品化学	2~8	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6
	微生物利用	2~6		2	C2	2,4		2	C2	2,4		2	C2	2,4
生物活用	2~6						B2	D2	0,2,4		B2	D2	0,2,4	
商業	簿記	2~6		B2		0,2		B2		0,2		B2		0,2
	原価計算	2~4			D2	0,2			D2	0,2			D2	0,2
家庭	子どもの発達と保育	2~6			D2	0,2			D2	0,2			D2	0,2
	生活と福祉	2~6		B2		0,2		B2		0,2		B2		0,2
	フードデザイン	2~10			◎2	0,2			◎2	0,2			◎2	0,2
専門教科計 (時間外)			9	11,9	11,13,15	29,31, 33,35	9	11,9	11,13,15	29,31, 33,35	9	11,9	11,13,15	29,31, 33,35
			(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
総探	総合的な探究の時間	3~6												
自立活動	*ライフスキル			1	1	2		1	1	2		1	1	2
合 計			30	30, 31	30, 31	90~92	30	30, 31	30, 31	90~92	30	30, 31	30, 31	90~92
			(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)

注1: ▲、◎はその学年で1つずつ選択する。

注2: A、Cは総合選択科目の自学科選択科目、B、Dは総合選択科目の他学科選択科目であり、AかB、CかDをその学年で1つずつ選択する。

注3: 3年次の他学科選択科目D2「生物活用」は2年次のB2「生物活用」を履修していることを原則とする。2年次に基礎的内容を履修し、興味・関心により、3年次に実践的内容を履修する。

注4: 3年次の他学科選択科目D2「農業と環境」は2年次のB2「農業と環境」を履修していることを原則とする。2年次に基礎的内容を履修し、興味・関心により、3年次に実践的内容を履修する。

注5: 3年次の自学科選択科目C2「微生物利用」は2年次に基礎的内容を履修し、興味・関心により、3年次に実践的内容を選択履修する。

注6: 各学科共通教科「公民」科目「天草学」は学校設定科目である。

注7: 「総合的な探究の時間」3単位は、専門教科「農業」科目「課題研究」で代替する。

令和3年度(2021年度)教育課程表			熊本県立天草拓心高等学校【本渡校舎】											(全日制)定時制・通信制	
学科			生活科学科												
入学年度			令和3年度(2021年度)入学				令和2年度(2020年度)入学				平成31年度(2019年度)入学				
令和3年度(2021年度)現在学年○印			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	計	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	計	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	計	
類型(コース)			全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
教科	科目	標準単位													
国語	国語総合	4	3	3		6	3	3		6	3	3		6	
	現代文A	2			3	3			3	3			3	3	
地理歴史	世界史A	2			2	2			2	2			2	2	
	地理A	2	2			2	2			2	2			2	
公民	現代社会	2		2		2		2		2		2		2	
	*天草学	2		B2		0,2		B2		0,2		B2		0,2	
数学	数学I	3	3	2		5	3	2		5	3	2		5	
	数学A	2		1	2	3		1	2	3		1	2	3	
理科	科学と人間生活	2			2	2			2	2			2	2	
	化学基礎	2	3			3	3			3	3			3	
	生物基礎	2		3		3		3		3		3		3	
保健体育	体育	7~8	2	3	2	7	2	3	2	7	2	3	2	7	
	保健	2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	
芸術	音楽I	2	▲2			0,2	▲2			0,2	▲2			0,2	
	書道I	2	▲2			0,2	▲2			0,2	▲2			0,2	
外国語	コミュニケーション英語I	3	3			3	3			3	3			3	
	コミュニケーション英語II	4		3	3	6		3	3	6		3	3	6	
	英語表現I	2			D2	0,2			D2	0,2			D2	0,2	
家庭	家庭総合	4	4			4	4			4	4			4	
情報	社会と情報	2													
各学科共通教科計			23	18,20	14,16	55,57,59	23	18,20	14,16	55,57,59	23	18,20	14,16	55,57,59	
農業	農業と環境	2~6	2	B2	D2	2,4,6	2			2	2			2	
	課題研究	2~6			3	3			3	3			3	3	
	総合実習 (時間外)	4~12	2	2		4	2		2	4	2		2	4	
			(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	
	農業情報処理	2~6	2		2	4	2	2		4	2	2		4	
	草花	2~8		2		2		2		2		2		2	
	食品化学	2~8		B2	D2	0,2,4		B2	D2	0,2,4		B2	D2	0,2,4	
生物活用	2~6			2	2		B2	2,D2	2,4,6		B2	2,D2	2,4,6		
商業	簿記	2~6		B2		0,2		B2		0,2		B2		0,2	
	原価計算	2~4			D2	0,2			D2	0,2			D2	0,2	
家庭	子どもの発達と保育	2~6		1	2	3		1	2	3		1	2	3	
	生活と福祉	2~6		A2	C2	0,2,4		A2	C2	0,2,4		A2	C2	0,2,4	
	ファッション造形基礎	2~6		2	2	4		2	2	4		2	2	4	
	フードデザイン	2~10		2	2	4		2	2	4		2	2	4	
専門教科計 (時間外)			6	9,11	13,15	28,30,32	6	9,11	13,15	28,30,32	6	9,11	13,15	28,30,32	
			(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	
総探	総合的な探究の時間	3~6													
自立活動	*ライフスキル			1	1	2		1	1	2		1	1	2	
合計			30	30,31	30,31	90~92	30	30,31	30,31	90~92	30	30,31	30,31	90~92	
			(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	

注1:▲はその学年で1つずつ選択する。

注2:A,Cは総合選択科目の自学科選択科目、B,Dは総合選択科目の他学科選択科目であり、AかB,CかDをその学年で1つずつ選択する。

注3:3年次の他学科選択科目D2「生物活用」は2年次のB2「生物活用」を履修していることを原則とする。2年次に基礎的内容を履修し、興味・関心により、3年次に実践的内容を履修する。

注4:3年次の他学科選択科目D2「食品化学」は2年次のB2「食品化学」を履修していることを原則とする。2年次に基礎的内容を履修し、興味・関心により、3年次に実践的内容を履修する。

注5:3年次の他学科選択科目D2「農業と環境」は2年次のB2「農業と環境」を履修していることを原則とする。2年次に基礎的内容を履修し、興味・関心により、3年次に実践的内容を履修する。

注6:各学科共通教科「公民」科目「天草学」は学校設定科目である。

年度	月	事業全体	生物生産科	食品科学科	生活科学科	SBP活動
令和3年度	4月	生徒理解研修(8) 教育課程検討委員会(16) 農業クラブリーダー研修	学科対面式(12) 地協研究活動【ホップ班】定植(23) イオン天草店地協活動ポスター掲示(9~) 果樹園案内(20)	地協研究活動【ガイダンス・班決め】(15) 果実類の加工①イチゴジャム製造(20) 小麦粉の加工①エヒテルハイデサントクッキー製造(21) 小麦粉の加工②パウンドケーキ製造(22) 1年生実習室の使い方の説明・見学(26)	学科対面式(12) 1年生実習室の使い方の説明・見学 農業鑑定学習 食物班冷凍せんだごの試作・動画レシピ制作 草花班ドレス製作(〜10月)	1億円プロジェクトオンライン会議(23)
	5月	本渡校舎紹介広告イオン天草店へ掲示(1~) 農業クラブ校内意見発表会 体育大会 「地域との協働」職員研修(20) 農業クラブ総会 第1回コンソーシアム会議(26)	畜舎見学(11) 農業鑑定学習(27) 大江農家との打合せ(20) コンソーシアム委員授業参加	地協研究活動【課題設定・調査】(6) 地協研究活動【グループ活動(調査・施策など)】(13、20、27) 非常食に関する研修会(青年会議所とのZOOM会議)(13) 実習服の正しい着用(21) エアシャワーの使い方(21) 実習室の清掃(24) 校内農業鑑定競技会(31) 農業鑑定学習(随時)	校内農業鑑定競技会 食物班冷凍せんだご汁のパンフレット制作 石鹸班石鹸試作 福祉班ズッキーニ料理試作	1億円プロジェクトオンライン会議(7、14、28)
	6月	本渡校舎紹介広告イオン天草店へ掲示 第2回コンソーシアム会議(9) 田植え体験実習(17) 防火避難訓練(19) 農業クラブ年次大会(17、18)	地協研究活動【ホップ班】誘引(1) 本渡北幼稚園との草花交流(7) 地協研究活動【ホップ班】誘引・側枝摘心(22) 地域資源活用(馬糞堆肥)交流会(18) 馬糞堆肥作り、調査、施肥(25) 農業鑑定学習(1) 本渡北小学校田植え交流(22)	地協研究活動【グループ活動(調査・施策など)】(3、10、17、24) 畜産物の加工①酸乳パール製造(1) 料理・菓子検定(5) 果実類の加工②晩柑マーマレード製造(9) オーブ炉視察(10) 果実類の加工③晩柑マーマレード製造(14) 田植え体験実習(24)	食物班せんだごの試作 家庭科技術検定2・3級筆記試験(25) 石鹸班石鹸試作 農業クラブ年次大会(17・18) 福祉班ズッキーニ料理試作 イオン天草店地協活動ポスター掲示(1~)	1億円プロジェクトオンライン会議(11、18)
	7月	1年生救命救急講習会(11) 第1回運営指導委員会(9) 体験入学	地協研究活動【ホップ班】誘引・側枝摘心(16) 高大連携研究会議(6) 農業技術検定(10) 家畜審査競技大会(13) GAP講習会(14) ボイラー取扱技能講習(26~27) 平板測量競技大会(26~27)	地協研究活動【中間報告書提出】(2) 地協研究活動【グループ活動(調査・施策など)】(8) 講師招聘事業「エスポルト天草館本舗」(6) 情報表示ラベル研修くらしの安全推進課(15) ハサップ講習会(16) 畜産物の加工②酸乳パール製造(21) ボイラー取扱技能講習(26、27) 情報処理競技大会(30)	家庭科技術検定1級筆記試験(2) 石鹸班阿蘇レディバグ視察研修(5) 石鹸班天草オーブ炉視察 石鹸班石鹸試作 被服検定2級実技試験(27) フラワーアレンジメントコンテスト(27)	1億円プロジェクトオンライン会議(9) 全国高校生SBP交流フェア準備(12~30) 全国高校生SBP交流フェア(31) イオン天草店地協活動ポスター掲示(1~)
	8月	農業鑑定(自営コース)県大会(1) 農業クラブ九州大会	農業鑑定競技会県大会(3) 地協研究活動【ホップ班】収量調査(10) 農大との土砂災害による研究内容の検討(30) 天草宝島起業塾	天草宝島起業塾	農業鑑定競技会県大会(3) 食物調理検定2級(10)	全国高校生SBP交流フェア準備(2~21) オリジナルたい焼き(あまりん焼き)試作(4、5) 全国高校生SBP交流フェア(1、22)
	9月	天草市一斉避難訓練(1) 第3回コンソーシアム会議(30)	小型車両系建設機械技能講習(4~5) コンソーシアム委員授業参加	地協研究活動【グループ活動(調査・施策など)】(9、16) 果実類の加工④イチゴジャム製造(6) 小麦粉の加工③エヒテルハイデサントクッキー製造(10) 小麦粉の加工④エヒテルハイデサントクッキー製造(13) 果実類の加工⑤ボン酢製造(14) ポスター作成(27)	食物班せんだごのアレンジレシピ試作 石鹸班五和町「天草天然にがり」視察 石鹸班石鹸試作 福祉班食育紙芝居制作	天草市長表敬訪問(17)
	10月	地域清掃ボランティア(5) 稲刈り体験学習(10) 第31回全国産業教育フェア埼玉大会 日本学校農業クラブ全国大会(27、28)	イオン天草店農産物販売会(30) 農業指導員によるカンキツ栽培アドバイス(9) 農業現場実習(13~15) 北小学校生との稲刈り交流会(5) 肉用牛調教講習	地協研究活動【グループ活動(調査・施策など)】(7、14、28) 稲刈り体験実習(7) 先進地視察研修(13) メールデュース視察(14)、いちご農家視察(14) エスポルト視察(14)、デンソー視察(14) 畜産物の加工③肉加工実習1回目開始(18~) 防災フェアにて試食会(24) 全国高校生SBP交流フェア参加(30)	福祉班銀天街「街はみんなの遊園地」での花の寄せ植え体験 食物班イオン天草店於販売実習でのレシピの配付 食物班せんだごアレンジレシピ試作 福祉班食育紙芝居コンテストへの応募(15) 家庭科技術検定2・3級筆記試験(29) 石鹸班石鹸作り	校内表彰式(1) 天草ケーブルテレビ、熊本日日新聞取材(4) オリジナルたい焼き(あまりん焼き)試作(6、13、15、20、22) 岸川先生来校講演会(17) オリジナルたい焼き販売(17、24)
	11月	熊本シェイクアウト訓練(1) 天草拓心祭(11~13) 第4回コンソーシアム会議(22)	天草拓心祭生徒販売実習(13) 高大連携中間打合せ会(9) 幼稚園とのみかん食育交流(30) 株式会社デンソー訪問(28) 天草市役所での成果プレゼン 肉用牛毛刈り講習	地協研究活動【グループ活動(発表用スライド・ポスター作成)】(4、18、21、26) 小麦粉の加工⑤パウンドケーキ製造(9) 小麦粉の加工⑥エヒテルハイデサントクッキー製造(10) 小麦粉の加工⑦パン製造(12~13) 天草拓心祭1~3年生販売実習(13) 銀天街「町はみんなの遊園地」にて販売会(21) 食生活アドバイザー検定試験(28) 畜産物の加工④肉加工実習2回目開始(26~)	家庭科技術検定1級筆記試験(5) 草花班アンケートの実施(21) 草花班ブーケ・ハーバリウム製作(25) 天草拓心祭Lコレファッションショー(10) 天草拓心祭1年生販売実習・福祉班花の寄せ植え体験(13) 全商ビジネス文書実務検定	熊本県教育長表敬訪問(1) 発表練習(1~10) 拓心祭発表(11)
	12月	研究成果発表会(22) 第2回運営指導委員会(22) 高校魅力化評価システム研修会(15) クラスマッチ(23) 修学旅行(8~10) 農業クラブ役員選挙	本渡北幼稚園との草花交流(15) 冬のつどい(16) 持久走みかん配布PR活動(3)	地協研究活動【グループ活動(発表用スライド・ポスター作成)】(2、9、16) 料理・菓子検定(11) ジェノワーズ製造実習3F(14) ジェノワーズ製造実習1F(14) 課題研究発表会(17) 銀天街「町はみんなの遊園地」にて販売会(19) クリスマスケーキ製造実習1F(20) 地協に関わる研究成果発表会(22) クリスマスケーキ製造実習3F(24)	2年生1年生福祉のお仕事事前講座(15) 食物調理検定3級(10) 被服検定3級(14) 1年生米粉講習会(17) 2年生札元農園視察研修(17) フラワーショップ花よどによるハーバリウム講習会(20) 食物調理検定1・2級(27)	SBP定例会、市役所との合同会議(8) 岸川先生来校講演・会議(18) オリジナルたい焼き(あまりん焼き)販売((19)
	1月	生徒面談期間(〜15) 大学入試センター試験(18、19) 校内美化スキルアップウィーク(20~24) 全国サミット	校内課題研究発表会(22) GAP講習会(23) 就農講演会(26)	地協研究活動【最終報告書作成】(13)	被服製作検定2級(7) 全商情報処理検定	オリジナルたい焼き(あまりん焼き)試作(12、14) オリジナルたい焼き(あまりん焼き)販売(16)岸川先生来校講演・会議(22)
	2月	1・2年生合同企業説明会(8) 1・2年生進研記述模試(18) 第5回コンソーシアム会議(18) 2年生対象者就職ガイダンス(19) 表彰式、同窓会入会式(29)	就農教育検討委員会(9) SDGs研修会(21) 危険物取扱者試験(22)	ジェノワーズ製造実習2F(14、16) クリスマスケーキ製造実習2F(19) 危険物取扱者試験(20)	2年生認知症サポート養成講座(16)	愛知県立高浜高校との交流販売in天草大陶磁器展(11、12)
	3月	卒業式(1) 職員向け研修会(4) 報告書提出	スマート農業講習会(8) 校内プロジェクト発表会(15)	食品衛生責任者講習会(4) 校内プロジェクト発表会(15)	校内プロジェクト発表会(15) 1年生保育園実習	オリジナルたい焼き(あまりん焼き)販売(20)